

新年を迎えて

平成 25 年 1 月 ほげい船原稿

新年明けましておめでとうございます。職員の皆さんも大きな期待を持って新しい年を迎えられたことと思います。毎年、「今年の漢字」が発表されますが、昨年は募集した投票の中で「金」が選ばれました。金が選ばれた理由として金環日食などの天文イベント、オリンピック・パラリンピックの金メダル、京都大学山中教授のノーベル賞受賞などの金字塔が打ち立てられたこと、消費税増税などの財政問題といった金をめぐる問題が浮上したことの等があげられています。昨年を振り返ってみますと、やはり、ロンドンオリンピック・パラリンピックでの日本人選手の活躍、山中先生のノーベル医学生理学賞受賞は日本中の人々に大きな感動と自信を与えてくれました。スポーツにしても、研究にしても、いい成績を残すためには目標を立てそれに向かって努力するが不可欠です。山中先生も目標を立てそれに向かって努力を惜しまなかったことが大きな発見につながったと話しておりますが、成功した人も成功に至らなかった人もその努力を行った過程は非常に重要で努力なくして成功が得られないことは当然のことです。

さて、高知病院についてこのことをあてはめてみますと病院目標を立て、職員が一丸となって目標に向かって努力することではないかと思えます。ただ、個人では時には努力が成功に至らないこともあるかと思えますが、高知病院においては目標に必ず到達せねばなりません。高知病院の大きな目標は地域の人々や医療者に信頼される病院になることで、地域の皆さんとのコミュニケーションを深め協力して地域医療の質の向上に寄与することが使命でもあります。また、一般の医療に加えて結核や重症心身障害児（者）の医療など採算性の高いとは言えない政策的に重要な分野の医療を確実に担っていくことも高知病院に課せられた課題と考えます。さらに、国立病院機構の病院の一つとして医療安全・感染対策に取り組まなくてはなりませんし、ネットワークを生かした多施設共同研究や大規模臨床研究を前進させなければなりません。このように高知病院として取り組む課題は数多くありこのことを確実に実施していくことで高知病院の存在意義もあがってくると思えます。

良質で安全な医療を提供するには機器整備も重要です。高知病院も開院 13 年となり新しい機器の新規導入、更新の時期となっており、ここ数年は機器整備に資本投入せねばなりません。この負債が過去負債に上乗せされ返済が大変になりますが、病院を進化させるには機器の最新化は避けて通ることができません。また、今年は電子カルテを導入しますのでさらなる資本投資が必要ですが、加えて関係の職員の皆さんには運転までの準備期間は大変と思いますが円滑な導入ができるよう宜しくお願いします。国立病院機構は強力な医療情報システムを構築しネットワークを活かした医療情報システムを核に、未来の医学を支える臨床エビデンスを創出していくことを今後の大きな目標としています。高知病院も

機構病院としてこれらの課題を視野に、対応できるようなシステム作りを進めていきたいと思っております。投資が非常に多い年ですが、高知病院の将来のために職員の皆さんと協力して経営基盤を確立し、病院を次のステップに発展させたいと思っておりますので宜しくお願い致します。